

# 遊びを通じた病児とその家族の心のケア

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会の取り組みを紹介します。

## おもちゃと遊びによる社会貢献活動

東京都新宿区にある特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会（理事長・多田千尋氏）は、「人間が初めて出会う芸術はおもちゃである」という考えのもと、「おもちゃと遊びによる社会貢献活動の実現」を目指している。

同法人の活動は、昭和59年に芸術教育研究所の付属施設として中野区に「東京おもちゃ美術館」を設立し、前身となる「日本グッド・トイ委員会」を発足したことに始まる。その後、美術館を新宿区へ移転し、平成29年には

「日本グッド・トイ委員会」、「芸術教育研究所」、「高齢者アクティビティ開発センター」の3つの組織が統合し、NPO法人芸術と遊び創造協会となり、現在に至っている。

運営する「東京おもちゃ美術館」には、約100カ国、10万点を超えるおもちゃの収蔵品があり、「0歳から99歳まで」というコンセプトのもと、幼児から高齢者までの多世代交流ミュージアムとして年間来場者数は約15万人にのぼる。館内には、赤ちゃん木育ひろばや手作りおもちゃの工房、大人も楽しめるゲーム、日本や世界の伝統的なおもちゃの展示など、さまざまなテーマのブースを設けており、日本の文化を学びに訪れる外国人の来場者も多いという。

支援活動では、多世代交流支援をはじめ、おもちゃ選び支援、地域遊び支援、子育て支援、病児の遊び支援、人材育成事業などを推進。これらの支援は、同法人が認定している民間資格となる「おもちゃコンサルタント」が、おもちゃの専門家として活動を支えている。

子育て支援の取り組みでは、全国のおもちゃコンサルタントがおもちゃ遊びを通じた子育て・交流サロン「おもちゃの広場」を企画

## WAMからひと言

計画変更により一部オンラインでの実施となりましたが、オンラインでのメリットを最大限に活かした取り組みが多く見られました。特にオンラインでの遠足や運動会などでは、自由に移動ができない方でも楽しめる工夫があり、参加者からも好評で多様なニーズを満たすことができました。またこれまでの活動の蓄積から、効果的なアクティビティ創出に向けて内部での話し合いを繰り返し行ったことも今回の大きな成果につながった要因であると感じました。

し、全国200カ所以上で開催している。

病児の遊び支援の取り組みでは、病棟や外来のプレイルームなどを活用し、院内で「おもちゃの広場」を開催するほか、難病の子どもと家族を対象に「東京おもちゃ美術館」を貸し切りで開放する「スマイルデー」を定期的に開催している。

病児の遊び支援の必要性について、子育て支援事業部の遠藤基子氏は次のように説明する。

「子どもの健全な発達に遊びは不可欠となりますが、とくに病児は遊びを通じた『楽しみ、体験、コミュニケーション、学習』という4つの経験が欠如しがちとなることから、そのような機会や環境を意識的につくる必要があると考えています。同時に療養が長く続くと、本人だけでなく家族の心のケアも必要となりますが、医師と異なる第三者の立場で関わるのが大事だと思っています」（以下、「」内は遠藤氏の説明）。

## コロナ禍によりオンラインを活用した遊びプログラムを提供

同法人は、令和2年度のWAM助成を活用



運営する「東京おもちゃ美術館」は、約100カ国、10万点を超えるおもちゃの収蔵品があり、実際に手に取り遊ぶことができる



病児の遊び支援として、病院内で「おもちゃの広場」を開催している様子

し、「全国16病院への遊びを通じた病児とその家族の心のケア事業」を実施した。同事業は、病児の子どもとその家族に対し、遊びを通じた心のケアを行うことを目的に、①病院内での病児と家族の遊び支援、②「病児の遊びとおもちゃセミナー」の開催を計画し、病院内にコミュニケーション、メディア、カルトイなどの良質な玩具と、おもちゃコンサルタントを派遣することにより、親子が豊かな時間を過ごす「おもちゃの広場」の設置を予定していた。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、病院での活動を休止せざるを得なくなったことから、対象を在宅療養する病児・障害児（以下、

### 事業概要

助成額

373万5千円



WAM 助成  
e-ライブラリー

### 令和2年度事業

## 特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会

全国16病院への遊びを通じた病児とその家族の心のケア事業

### 【事業概要】

病児とその家族に対し、遊びを通じた心のケアを行うことを目的に、病院内に良質な玩具とおもちゃコンサルタントを派遣し、親子で豊かな時間を過ごす「おもちゃの広場」を開催するとともに、当事者家族や支援者、医療従事者向けに病児の遊びとおもちゃケアを学ぶセミナーを実施する事業



### 【実施内容】

- ◆病院内での病児と家族の遊び支援  
新型コロナの影響で病院内での活動が中止となったことを受け、オンラインツールを活用した遊びのプログラム「オンラインおもちゃの広場」を開催し、参加者全員で遊びを楽しむアクティビティとともに、小人数で対話の時間を大切にプログラムを提供
- ◆「病児の遊びとおもちゃ」セミナーの開催  
当事者家族やおもちゃコンサルタント、医療従事者向けに病児の遊びとおもちゃケアの大切さを学ぶセミナーを開催



### 【成果】

- ◆「オンラインおもちゃの広場」は、令和2年5月～令和3年3月の期間に108回開催し、延べ1130組（延べ3390人）が参加した  
オンラインで開催することにより、自宅でリラックスした状態で参加することができ、遠方に住む家族や在宅療養する病児・障害児の家族など対象を広げてアプローチすることができた
- ◆3回開催したセミナーは、当事者家族を対象にコロナ禍での不安の解消を図ることを目的としたトークライブと、支援関係者を対象にオンラインを活用した活動事例の紹介、病児に適した遊び支援について学ぶセミナーを2回実施した



「病児」とその家族に変更するとともに、オンラインツールを活用した遊びのプログラムを提供する「オンラインおもちゃの広場」事業に切り替えて実施した。  
「在宅療養している親子を対象にした『オンラインおもちゃの広場』を実施した理由としては、コロナ禍のなか、家族以外とのコミュニケーションをとる機会がなく、子どもだけでなく、一日中子どもの世話をしている家族がストレスを抱えているという声が多く寄







計108回開催した「オンラインおもちゃの広場」には、延べ1130組（延べ3390人）の在宅療養する家族が参加した



アクティビティでは、おもちゃコンサルタントによる、おもちゃを用いた「おはなし劇場」や読み聞かせ・手遊び、パネルシアター、手作り工作などを実施

## 集団遊びと個別支援を両立した 多様なプログラム

せられたことがきっかけでした。計画の変更にあたり準備期間は十分ではありませんでしたが、全国にいるおもちゃコンサルタントに協力を呼びかけ、アイデアを出しあいながらプログラムを開発し、令和2年5月から開始することができました」。

「オンラインおもちゃの広場」は、オンラインツールのZOOMを活用



体験型プログラムとして実施した運動会や自然体験ワークショップのハケ岳遠足の様子



用し、毎週水・土曜日の10時～10時半の時間帯に開催した。プログラムは、幼児向け教育番組をイメージし、決まった時間に決まったプログラムが行われる安心感を提供することを目指した。

オープニングは手遊びを盛り込んだ歌に始まり、参加者全員でアクティビティを楽しんだあとは、少人数のグループに分けて対話の時間をつくる構成とし、集団遊びと個別支援の両方を大切にしながらプログラムとしている。

アクティビティの内容では、おもちゃコンサルタントによる、おもちゃを用いた「おはなし劇場」や読み聞かせ・手遊び、パネルシアター、手作り工作などのほか、遠足や運動会といった体験型プログラムをあわせて行った。

「遠足は、当法人の研修事業で講師を務めているハケ岳在住の方に協力してもらい、ハケ岳から中継して案内をしていただきました。参加者は一方的に映像をみるだけでなく、遠足の恰好をして講師の方がスマホのカメラを使って映した鳥の巣箱を覗いたり、事前にセミの抜け殻や葉っぱと一緒に観察ルーペという科学おもちゃを参加者に送り、それを使って観察する自然体験ワークショップを行いました。また、運動会は、かけっこや玉入れなどを実際に行っているような演出を行い、買い物競争では『おうちにある赤い物』というお題を出し、家の中を探してもつ

## 対話を大切に 小グループでの活動

てきてもらいました。とくに運動会のプログラムは好評で、参加者だけでなく活動を知った医療関係者からプログラムに関する講師の依頼があり、研修会でノウハウを提供するなど反響がありました」。

アクティビティを実施したあとは、当日の振り分け担当者が子どもたちの様子をみて、おもちゃコンサルタント2人に対し、3～4人の家族を割り振り、ZOOMのブレイクアウトルーム機能を活用して小グループでの活動を行った。それにより、一人ひとりの参加者を名前で呼びかけ、会話を交わしながらコミュニケーションを図ることができるという。

「オンラインでの病児の遊び支援のポイントとしては、一方的にアクティビティなどのプログラムを提供するのではなく、双方向性のあるやりとりを大切にしながら、子どもたちと遊びの空間をつくり、一緒に過ごしていくことが重要であることを実感しています。とくに小グループの活動では、病児だけでなく、保護者やきょうだい児から話を引き出し、いくこともポイントとなっています」。

「オンラインおもちゃの広場」は、令和2年5月から令和3年3月までの11カ月間に108回開催し、延べ1130組（3390人）の病児と家族が参加した。

病院で開催する「おもちゃの広場」の場合、緊張してしまう子どもも少なくないが、オン



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。著作権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

ラインでは安心できる自宅から参加することでリラックスした様子がうかがえたという。参加した家族からは「緊急事態宣言中、子どもに付きっきりでストレスフルであったが、『おもちゃの広場』の存在が刺激になった」「家族以外の人と話す機会が大切であることに実感するとともに、回を重ねるごとに子どもの成長がみられた」などの声が寄せられている。

そのほか、助成事業では病児の保護者を対象にしたトークライブと、おもちゃコンサルタントや医療関係者などの支援者、病児・障害児支援に関心をもつ地域住民を対象に「病児の遊びとおもちゃケア」に関するセミナーをオンラインで開催した。

トークライブでは、国立成育医療研究センターの小児科医に登壇してもらい、専門家から意見を聞きながら、コロナ禍で病児の世話をする家族の不安解消を図った。また、2回開催したセミナーでは、オンラインを活用した「病児の遊びとおもちゃケア」の活用事例やノウハウを共有するとともに、病児に適した遊びの研修などを行った。

トークライブには、病児の保護者205人、セミナーには、おもちゃコンサルタントをはじめ、医療従事者、保育士、学生など計275人が参加した。

## トークライブとセミナーを オンライン開催

## 社会貢献活動に関わる 人材の育成に取り組む

特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会

子育て支援事業部 遠藤 基子氏



新型コロナの影響により、当初の計画から大幅な変更を余儀なくされましたが、WAM助成を受託した責任感と目の前に当事者がいることが原動力となり、計画していた対象者とは異なる層のニーズに応えた事業を実行することができました。むしろ、新型コロナのおかげでよりポジティブ

になれたところもあると思っています。

「オンラインおもちゃの広場」の実施にあたっては、看護師や保育士などのバックグラウンドをもつ「おもちゃコンサルタント」が自身の経験を踏まえたアイデアを出しあいながらプログラムを開発してくれたことにより、病児の遊び支援の内容の幅が広がりました。

今後は、芸術と遊びによる社会貢献活動に関わる人材を育成し、その人たちがリーダーとなり、さまざまな支援を展開していける仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。

## 病児の遊び支援の 新たな領域を開拓することに

助成事業の成果として、コロナ禍のなか、オンラインでの病児の遊び支援という新たな領域を開拓することができた。

「オンラインの活用で病児の遊び支援の内容の幅が広がるとともに、遠方に在住する家族やこれまでの対象とは異なる層の方たちにアプローチするなど、新しいニーズに応えることができたのではないかと思います。難病児の家族を対象にした美術館の貸し切りイベントでは、体調不良のために毎回キャンセルになってしまいう子どもがいたのですが、オンラインでようやく参加できたというケースもありました。オンラインでは移動の負担や感染リスクもないため、毎回参加できるのでう

れしいという親子からの声も多くいただいています。今後も新型コロナウイルスの影響により、病院での活動が難しいままとなる可能性があるなか、リアルとオンラインの両方の引き出しができたことは大きな成果だと考えています。

新型コロナウイルスの影響により当初の計画から変更を余儀なくされたなか、工夫を凝らしながら病児の遊び支援を行う同法人の活動が全国に広がることを期待される。

### ◆団体概要

〒160-0004  
東京都新宿区四谷4-20 東京おもちゃ美術館内  
TEL: 03-5367-9601  
FAX: 03-5367-9602  
URL: <http://goodtoy.org/>  
設立: 平成15年1月(前身団体: 昭和60年4月)  
理事長: 多田 千尋



社会福祉振興助成事業に  
関するお問い合わせ

### ●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)

TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)

TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への  
応援よろしくをお願いします!

当機構では  
寄付金を募集  
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

